

# 亀田地区公民館運営審議会 会議概要

## 1 開催概要

- (1) 名称 第8期 第4回 亀田地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和5年3月7日(火) 午前10時～午前11時50分
- (3) 会場 亀田地区公民館(江南区文化会館内) 多目的ルーム1・2
- (4) 出席者(敬称略)
  - ①委員 阿部菜月(蒲原智子代理出席)、植木京子、遠藤由美(副議長)、齋藤真人、齋藤裕(議長)、坂井幸恵、塚野義孝、弦巻真里枝、戸田道治、横木春三(五十音順)  
(欠席)なし
  - ②事務局 【亀田地区公民館】 拝野博一(館長)、山宮智子  
【曾野木地区公民館】 山上実(館長)  
【横越地区公民館】 鈴木直美(館長)、高山佐和子
- (5) 傍聴者 0人

## 2 審議内容

- (1) 令和4年度事業経過報告について(亀田・曾野木・横越)
- (2) 令和5年度事業計画(案)について(亀田・曾野木・横越)

## 3 概要(意見・質問事項)

- ・予算・決算で決算の数字をみると執行残が残っているが、予算が潤沢にないと事業ができないのではないか。市全体の予算が減らされているのか。決算が反映されて予算が編成されていると思うが、審議会から意見を上げて予算を確保することはできないか。

→亀田だけではなく市全体で約2割削減されている。数値化が難しい人材の育成などの社会教育の実績を示すことが難しいことから厳しい予算になっている。今後、学校教育と社会教育が連携して行うコミュニティスクールなどに軸足を移していくこともあるかもしれないが、厳しい現実にあることに違いない。(亀田)

→横越が江南区では唯一、児童期家庭教育学級を開催してきたが、児童期よりも幼児期の参加者が多いことから、児童期の開催が苦渋の決断で次年度より隔年開催とすることとした。回数を各々減らすという選択肢もあったが、参加者同士でコミュニケーションをとる機会が必要ということで、きちんと4回開催して満足してもらいたいと思っている。次年度は幼児期、再来年は児童期を開催したいと考えている。(横越)

- ・講師の協力を求めていくことも必要。今はいよいよ期、思春期の子どものふた山の講座をやっていく必要がある。また、高齢者がいきいきと生活でき、子どもと交流できるようにしていくことも必要。

- ・小中学生のお母さんが気軽に相談できる場所、話し合える場所が必要。児童相談所や教育支援センターでは、ハードルが高すぎる。

→誰でも来られる居場所を配置することが大切だと考えている。予算が削減されて講師も呼べなくなると、公民館では講座もできなくなる。最終的には誰でもが集える場所、いろいろな悩みを抱えている人の居場所になっていくのではないかと思う。(亀田)

- ・所得制限や保育料の無料化などの国の政策で少子化がストップするかは疑問。子育ての負担感を感じるばかりでなく、親として子育ての喜びを感じられるような社会支援があるとよいと思う。今の子どもたちは、親が手をかけずに育ってきている。また、親の愛情を感じて育ってきていない。悩みを抱えている親の話し合いの場を持つことが大切だと思う。

- ・公民館事業が子育て支援のベースになっていることは良いこと。子どもが小さい時に親の支援をしてあげること、子どもと離れる時間を確保してあげること。SNSのルールを作ることを親に覚えさせることと、中高生などには発表などの機会を与えることが大切。公民館の強みは場所があるということ。他のことは工夫で何とかできるので、強みを活かしていくことが重要。

- ・思春期の教育は大切。人としてそれまでの過程でいろいろな問題があるが、一番重要な乳幼児期の予算を減らさないのは大きな決断であると思う。環境は大きいので、親の支援は欠かせないと思う。学校教育、社会教育の成功例は目に見えないので、公民館が担っているそういった家庭教育の基礎を支える役割は大きい。

- ・横越のピカピカ大作戦は、なぜコミ協へ移行したのか。

→ピカピカ大作戦というのは、公民館の事業でないのではという指摘をいただき、15年位続いた事業ではあったのが地域へ移行した。ピカピカ大作戦は地域の事業でもあるので、横越地域の名物事業として、地元の企業にも参加いただきながら公民館は後方支援をしていく。(横越)

- ・乳幼児期の家庭教育学級についても内容や視点を今一度考えながら取り組んでいくことが大事。それが抱えている悩みとかの解決につながっていく。

- ・予算は、公民館だけではなくコミ協などの各団体にもあるので、コラボレートして取り組むことも必要だと思う。自治協ともコラボできれば、ある程度の予算を確保することはできるのではないか。ただ、自治協では、乳幼児を対象とした事業は今までにないので説明が必要だと思うが、コラボも考えてみてはどうか。

→様々なご意見をいただき参考になる。子供の成長にとって、社会教育だけではなく、家庭教育をよくするための社会教育側のアプローチの仕方を考えていきたいと思う。(亀田)

- ・コミュニティスクールなども始まって、行政と学校、地域などは手を結び始めているが、肝心の保護者まではまだ手を結べていない。子どもは親の背中を見て育つので、このままだと、今の子どもが親になったら大変なことになっていく。PTAも今後考えていかなければならないし、4者が手を結んでいかなければ、良い方向にはいかないのではないかと考えている。今後もこのような会でいろいろと考えて話ができればと思っている。